

◆令和4年5月6日(金)の三重タイムズ新聞に、都市環境ゼミナールの記事が掲載されました。

令和

4年(2022)5月6日号(金曜日)

三 重 タ イ ム ズ

都市環境ゼミナールが50周年

モノづくりに加え、コトづくりへ 人、モノ、情報つなぐ機能強化を!

堀田中部整備局長が講演

令和4年度(第50回)都市環境ゼミナール通常総会と記念講演会が4月16日(土)、津市栗真中山町の三重大学環境情報科学館で開催された。講師の国土交通省中部地方整備の堀田治局長が「インフラがつなぐ、中部の未来」をテーマに「方向性について」をテーマ



に講演した。コロナ禍のため3年ぶりの記念総会となった。

堀田局長は50年間に振り返り、「東海道新幹線の輸送人数は1日平均23万1千人(S45)が令和元年には13万8千人と5倍に。高規格幹線道路の整備は2022*(S52)が1万282*(R1)と6倍に。名古屋港の総貨物取扱量は6966万ト(S46)が1億775万ト(R3)と3倍に。一方、自然災害の水害被害額は0.6兆円(S50)が2.2兆円と増大」と数字を示し、「国連の世界幸福度指標では、日本は世界トップクラスの健康寿命を誇るが、他人に厳しく、

人生の自由度が低い国」と指摘した。中部整備局長が今年2月にまとめた「中部圏長期ビジョン」を紹介し、「中部圏は日本のまん中で、充実した交通インフラ・ネットワーク、豊かな自然環境、固有の歴史文化、経済特色を支える基盤産業、ゆとりある生活環境がある」としながら、「災害リスクが高く、若者・女性への訴求力が不足しているのが中部圏の弱み」と分析した。

さらに、中部圏の目指すべき将来像について、「ものづくりに加え、コトづくりへQOL(クオリティ・オブ・ライフ)質の高い暮らし」を高める、SDGsの達成など世界的課題にチャレンジし成長する産業、イノベーションが生まれる地域、ハード・ソフトのネット

ワークを拡充して、個性磨きを助け合う地域を目指すべき」とし、その実現に向けて「防災・減災、国土強靱(きょうじん)化、スタートアップ企業の集積創出を生み出す環境、仕組み作り、地域資源を活かしてアート、食文化などの観光需要の拡大、全ての産業がカーボンニュートラルに転換、人、もの、情報をつなぐ都市機能の強化、先進的モビリティ動きやすさの活用、リニアを活かした関係人口の拡大を重点連携プロジェクトに取り組まなければならない」と強調した。

最後に「NOW is Better! 今がより良いと思える社会なるのが良い、そんな風に生きていきたい」と締めくくった。

講演後、質疑があり、東京二局集中は続くのかという質問に、「人口が減っても知的好奇心から東京への集中は続く。イノベーションの芽は地方にあり、3DPリンターも名古屋で生まれ世界へ出て行った。がんばっている人が多いが、中々伸びないのは他者に寛容でない中部の特性が影響しているのではないかと答えた。

伊東達雄会長は「NOW is Better」とは昨日より今が幸せ。将来が今よりベターであってほしい」と呼びかけた。

「都市環境ゼミナール」は、1972(昭和47)年夏、三重大学が文部省の要請を受けて開催した初の公開講座「都市環境デザインの

理論と実際」を受講した参加者によって設立された自主ゼミ。環境NPOとして月例研修会、現地学習会、一般公開シンポジウムなど、多様な内容で研修・啓発・交流事業を展開している。問い合わせは伊東達雄研究室内・都市環境ゼミナール電話&ファクス059(231)6403。